

成田空港における管制機能の高度化・高速離脱誘導路の整備

管制機能の高度化

- 成田空港では、2011年10月より同時平行離着陸方式を導入。
- 管制機器の高度化(WAM※の導入)により、悪天候による低視程時においても、管制官が航空機の位置を精密に把握して同時平行離陸を行い、2本の滑走路を独立に運用し、最大時間値68回を達成できることが明らかになった。
- 2014年度中に実現する予定。

同時離着陸のイメージ

【同時離着陸を行わない場合】

【同時離着陸を行う場合】

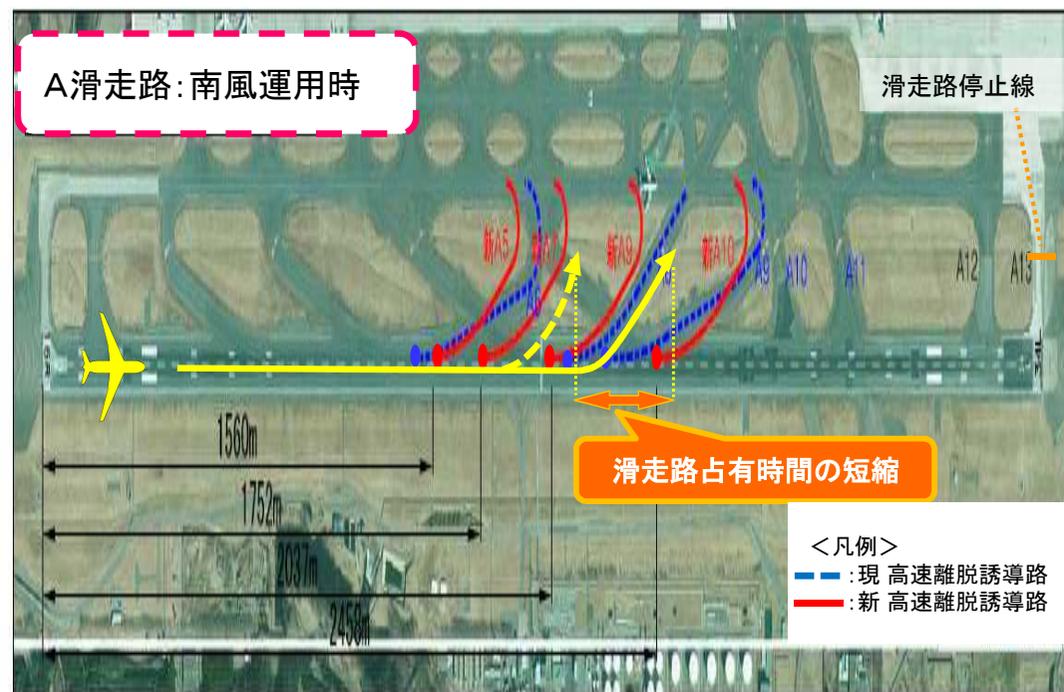
悪天候時
も可能に

※北風運用時の離陸の場合



※ Wide Area Multi-lateration : 管制機能の高度化に必要な監視装置

高速離脱誘導路の整備



A、B滑走路それぞれ適切な位置に高速離脱誘導路を整備することにより、A、B滑走路それぞれの時間値がさらに2回程度増加する見込み。